

平成26年2月13日

総合科学技術会議有識者議員との意見交換会
於 中央合同庁舎第4号館

日本の科学を考える
A Discussion Site for Japanese Science

「ガチ議論」からの提言 現場の研究者の声を！

「ガチ議論」スタッフ
藤田保健衛生大学 宮川 剛
大阪大学 近藤 滋

<http://scienceinjapan.org/>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

おはようございます、藤田保健衛生大学の宮川です。
よろしくお願いいたします。

研究社会には 問題が山積!!

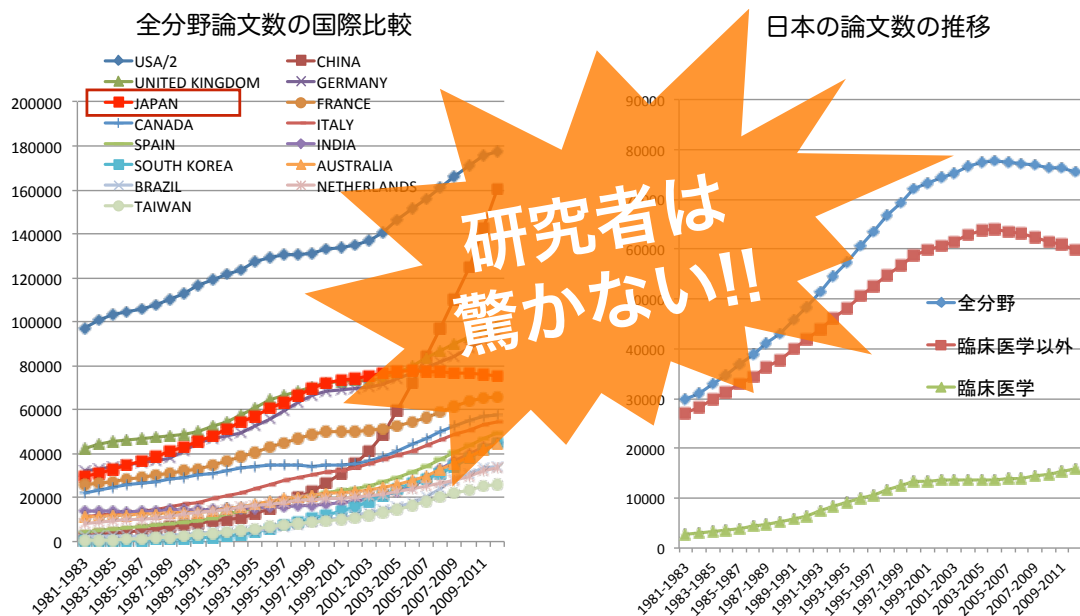


<http://scienceinjapan.org/>

ScienceTalks
Challenging norms, driving change
©CA 2016

研究社会には問題が山積しておりまして、若手も含めまして、
老若男女の研究者が実に様々な不満や不安をもっております。

近年、日本だけで論文数減少！



(米国は1/2の値、トムソン・ロイター社InCites™で分析、3年移動平均)

(トムソン・ロイター社InCites™で分析、3年移動平均値)

ScienceTalks 「国際競争に勝つために今こそ地方大学の研究力を高めよ」 鈴鹿医療科学大学学長 豊田長康氏資料より改変

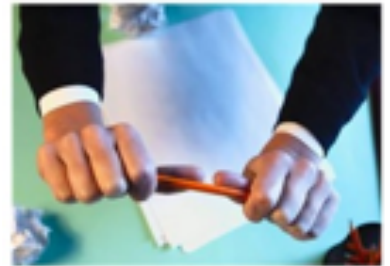
<http://www.sciencetalks.org>

ScienceTalks
Challenging norms, driving change

ここ数年で、日本だけで論文数が減少している、という驚くべき事実があるわけですが、
問題が山積していることをよく認識しているわれわれ現場の研究者たちは、
さもありなん、ということで全く驚いておりません。

研究社会には 問題が山積!!

しかし身内で愚痴を言うだけ…



しかしながら、残念なことに基本的には、現場の研究者は
身内で愚痴をいうだけ、というのがほとんどです。



2013年 日本分子生物学会・年会
近藤 滋 年会長

「不満を行政サイドにぶつけて議論し
生産的なものにできないか!？」



<http://scienceinjapan.org/>

ScienceTalks
Challenging norms, driving change
©CA 2016

そこで、そのような不満・不安を行政サイドにぶつけて議論し、生産的なものにできないか？
と、2013年 日本分子生物学会・大会・近藤滋大会長が思ったのが
この「ガチ議論企画」のそもそものモチベーションです。

ネットとリアルで ガチの議論をやるう!!



<http://scienceinjapan.org/>

ScienceTalks
Challenging norms, driving change
©CA 19.6

そこで、インターネットと、リアルな会合・シンポジウムの両方で
行政の方々も交えて、ガチの議論、本気の議論をやるうではないか、となりました。

ネットでの「ガチ議論」サイト



リアルでの「ガチ議論」シンポ



アクション

インターネットで継続的に議論できるガチ議論サイトというのを作りそこで、議論し、

*リアルでガチ議論シンポジウム・会合などを行い、*これを繰り返して意見や案をもんで洗練させ、*アクションへ結びつけようではないか、ということであります。

*このガチ議論サイトというものについて説明いたします。

「ガチ議論」サイト



<http://scienceinjapan.org/>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change
©CA 2016

日本分子生物学会の2013年度年会が「ガチ議論」サイトというホームページを作りました。

これがこのサイトのホームページのトップでありまして、このサイトには、

「ガチ議論」サイト



Science in Japan
日本の科学を考える
A Discussion Site for Japanese Science

2013.10.29 トピックス

研究者と雑用

Like 174 Tweet 157

トピック (問題と提案)

研究費をどのように分配するかというのは非常に難しいテーマで、研究、どちらにどれくらい予算を配分するのが最適かという問題はないと思います。一方で、総額はそのままに、研究費を実質増加させる事が出来る素晴らしい方法があります。それは雑用の軽減です。

雑用のために研究の時間が取れないという話を良く聞きます。授業や広報活動や予算申請などが雑用かどうかは別途議論が必要かもしれませんが、あきらかに他のプロの方（たとえば事務の方）が行うべき業務を研究者が行っているという例も散見されるような気がします。

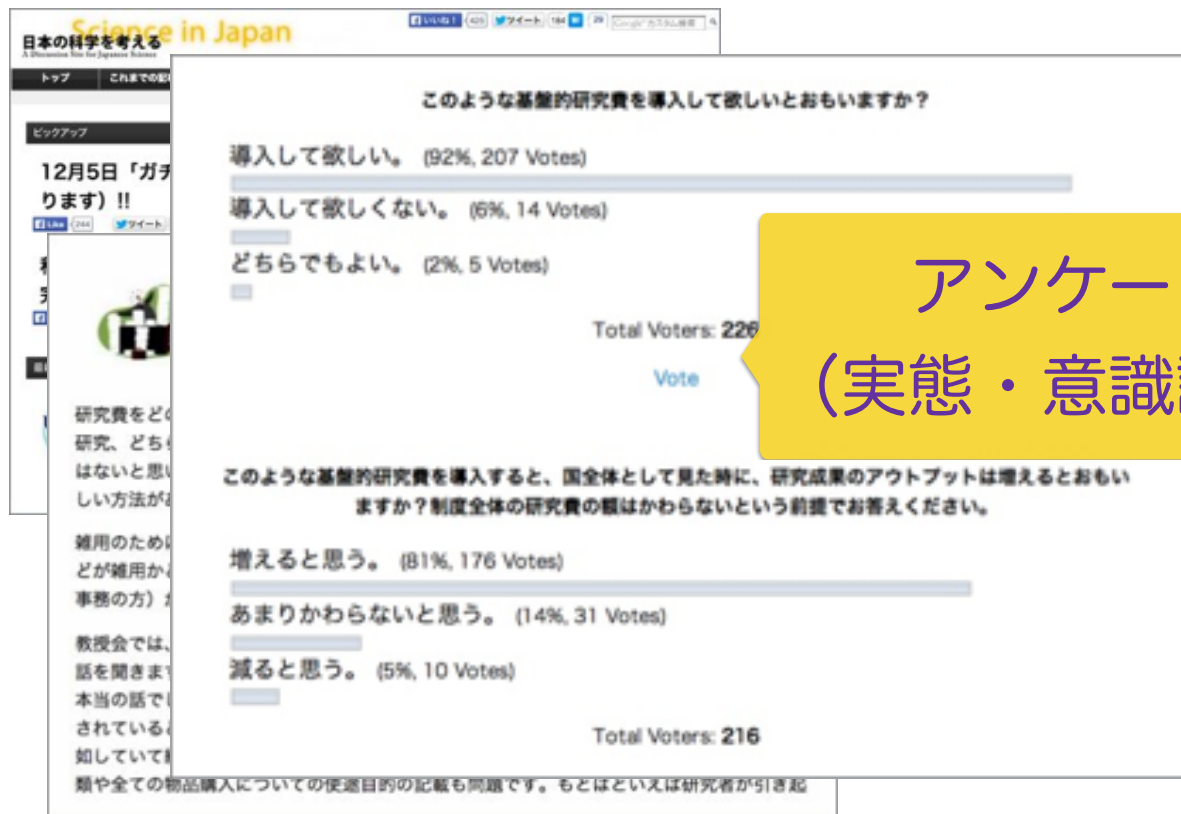
教授会では、教授が話し合わなくても良いのではないかと話題がよく議題に上るという話を聞きます。教授会でトイレのドアの扉を変えるかどうかを延々議論しているというのは本当の話でしょうか。また、各研究室の電気メーターのチェックを超一流大学の助教の方がされているという話も聞いたことがあります。このあたりは役割分担が必要なのにそれが欠如していて結果としてムダを生んでいる例ではないでしょうか。物品納品にかかる煩雑な書類や全ての物品購入についての使途目的の記載も問題です。もとはといえば研究者が引き起

<http://scienceinjapan.org/>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

各種の日本の科学一般にまつわるトピックが問題提起され、提案が記されます。
このトピックはだれからでも受け付けることができるようにいたしました。

「ガチ議論」サイト



アンケート
(実態・意識調査)

その提案に対して、アンケートを行なって実体・意識調査ができるようにしておき、さらに

「ガチ議論」サイト



Science in Japan
日本の科学を考える
A Discussion Site for Japanese Science

トップ | これまでの記事 | お知らせ

ピックアップ

12月5日「ガチ議論」を行います!!

2013.12.05

研究

研究費をどのように分配するべきか、どちらにどれくらい配分すべきか、という方法があります。

雑用のために研究の成果が雑用かどうかは別問題、事務の方が行うべきか、教授会では、教授が雑用を聞きま... 教授会では、教授が雑用を聞きま... 本当の話でしょうか。...

コメントと議論

Eigo Sumi → Shinichi Nakagawa · 3 months ago

完全に出遅れてしまいましたが一言だけ。「研究・教育」と「雑用」は「0か1か」のbinaryではなく、「半ば雑用」「ほとんど雑用」のような連続的量だと思います(雑用すると例えばトイレ掃除だって「研究に必要」と言えますし、実際に私もやっています)。「雑用らしきx時間」で積分すると、日本の多くの研究者は「月平均100時間」は決して下らないと思います。ガチ議論会場にもとても行けませんが(すみません)、日本ひいては世界の未来のため、非常に重要な活動だと思っております。どうぞよろしくお願ひします!! (他の方のコメントを読む時間的余裕もなく、もし重複してしましたらどうかご容赦ください)

とこるん · 3 months ago

センター入試や面接官以外の入試の(問題作成者以外の人の)試験監督、就職セミナーの立会い、物品購入の検品、会計システムへの入力作業、授業プリントのコピー、定期試験の点数入力作業など、事務員さんができること、TAができることなど

FJ · 3 months ago

雑用が増える事にはなりますが、事務や経営に関する事にも教授会等の研究者、教員の審査が及ぶようにすれば、二重書類などの削減ができるはずです。教員と事務の区分がはっきりされているのが問題。へたな事をいうと無職な委員会を任せられるのを恐れて誰も手を出さない。結局はリーダー不足が根拠にある。では、プランBとして自分の組織では言えないけど、社会を借りて文料省なりを通して所属する組織に意見を伝えようというのが皆様の趣旨でいいのでしょうか。

Shinichi Nakagawa · 3 months ago

色々なご意見が寄せられたのでこのへんでいったんまとめてみます。引き続きご意見、ご質問を願ひします。

寄せられたご意見の大体のコンセンサスとして、本来の意味での「雑用」というのは存在しないということがあるようです。それぞれ一応は大義名分のたつ重要な仕事ですから、それになんていう、という話にはならず、結局それが積み重なって、研究者の時間を圧迫している、という問題があるのではないのでしょうか。

<http://scienceinJapan.org/>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

コメントと議論が自由にできるようにいたしました。

「ガチ議論」サイト

Twitter等 での議論



学会等の研究者、教員の審査が及...
と事務の分業がしっかりされてい...
恐れて誰も手を出さない。結局は...
では言えないので、学会を盛りて...
皆様の題目でないでしょうか。

ます。引き続きご意見・御討論お...

の「雑用」というのは存在しない...
要な仕事ですから、すくなくそ...
時間を圧迫している、という構図

<http://sciencein japan.org/>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

この議論ですが、できるだけ多様な方々から意見が寄せられるよう、
ツイッターやフェイスブック、はてなブックマークなど様々なソーシャルメディアから
投稿できるようなデザインになっております。
行政の関係者、本日ご参加されている斉藤さんにも書き込みをしていただいています。

「ガチ議論」サイトの反響

Science
日本の
科学を
考える
Japan

コメント書き込み

2013.1~2014.1

983

ページ閲覧数 2013.1~2014.1

459,660



関連Tweet 数

2013.1~2013.12

3,282



「いいね」数

2013.1~2013.12

3,587

その結果、多数の閲覧と意見書き込みをいただくことができております。

サイトに寄せられたさまざまな提案

すべての公的研究費の複数年度予算化を！
プロジェクト型研究よりも科研費の拡充を！

安定した基盤的研究費の導入を！

ねつ造問題にもっと怒りを！

海外日本人研究者ネットワークに公的な支援を！

労働契約法の改正にもっと議論を！

研究者の雑用軽減を！

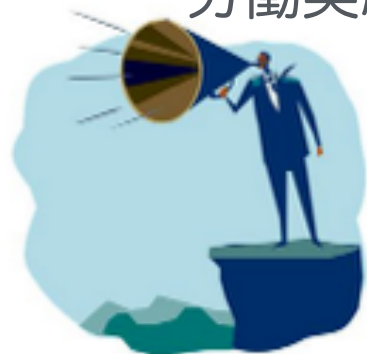
科学誌の出版社はもうけ過ぎ!?

安定性と競争性を担保するテニュアトラック制度を！

監査局や研究公正局の設立を！

学会なんていない！

マスメディアは科学リテラシーを高めて！



<http://scienceinjapan.org/>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

このサイトには、さまざまな問題提起・提案が寄せられたわけですが、
まず、このサイトで指摘された問題点となされた提案のいくつかをピックアップして紹介し、
それらについてサイトを訪れた方々がどのように感じたか、をざっと説明させていただきます。

時間の関係上、詳しいことはお示しできませんので、詳細は、
それぞれのURLにアクセスしてご覧いただければと思います。

課題

研究者のポスト問題!!

- ・ポスドク1万人計画後、ポスト競争過熱!
- ・若手が敬遠!
- ・競争過多で研究にマイナス!
- ・常勤(任期なし)と非常勤(任期付)待遇の差が大きすぎ!



<http://scienceinjapan.org/topics/20130925.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

トピックその1です。*研究者のポスト問題。

*ポスドク1万人計画後、ポスト競争が過熱。*研究適性の高い若手でも、参入を敬遠。

*競争過多で研究にマイナスになってます。

*さらに常勤と非常勤の待遇の差が大きすぎで5年あるいは10年の雇い止め問題も

現在問題になっています。

提案

安定性と競争性を担保する 日本版テニユアトラック制度を!!



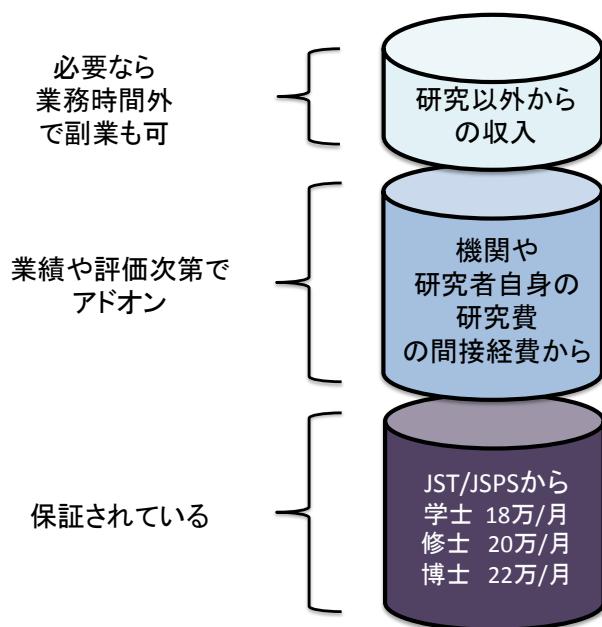
- ・ 身分は安定させるが競争的なアドオン給与
- ・ 余程のことがない限りテニユアが取得可能
- ・ 多様なキャリアパス

<http://scienceinjapan.org/topics/20130925.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

これに対して、*安定性と競争性を担保する日本版テニユア・トラックのようなものができるか、という提案です。この提案では、
*身分そのものは安定させるが、基本報酬は低く抑え、競争的なアドオン給与をつけます。

最低限の収入保証と競争的 アドオン給与!!



研究以外からの収入の例:
教育コマ数に応じた収入
一般向け書籍の著作権料
ベンチャー

機関によるアドオンの基準設定
マイスタートラックの職階の例:
プリンシパル・リサーチスペシャリスト
プリンシパル・リサーチエンジニア
シニア・リサーチスペシャリスト
シニア・リサーチエンジニア
シニア・テクニカルアシスタント
リサーチアソシエイト
リサーチエンジニア
テクニカルアシスタント



参考URL(マサチューセッツ工科大学の職位・職階) <http://web.mit.edu/policies/5/5.2.html>

<http://scienceinjapan.org/topics/20130925.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

身分はJSTやJSPSなどの中央雇用で最低限保障しますが、業績次第でアドオンがつきます。

提案

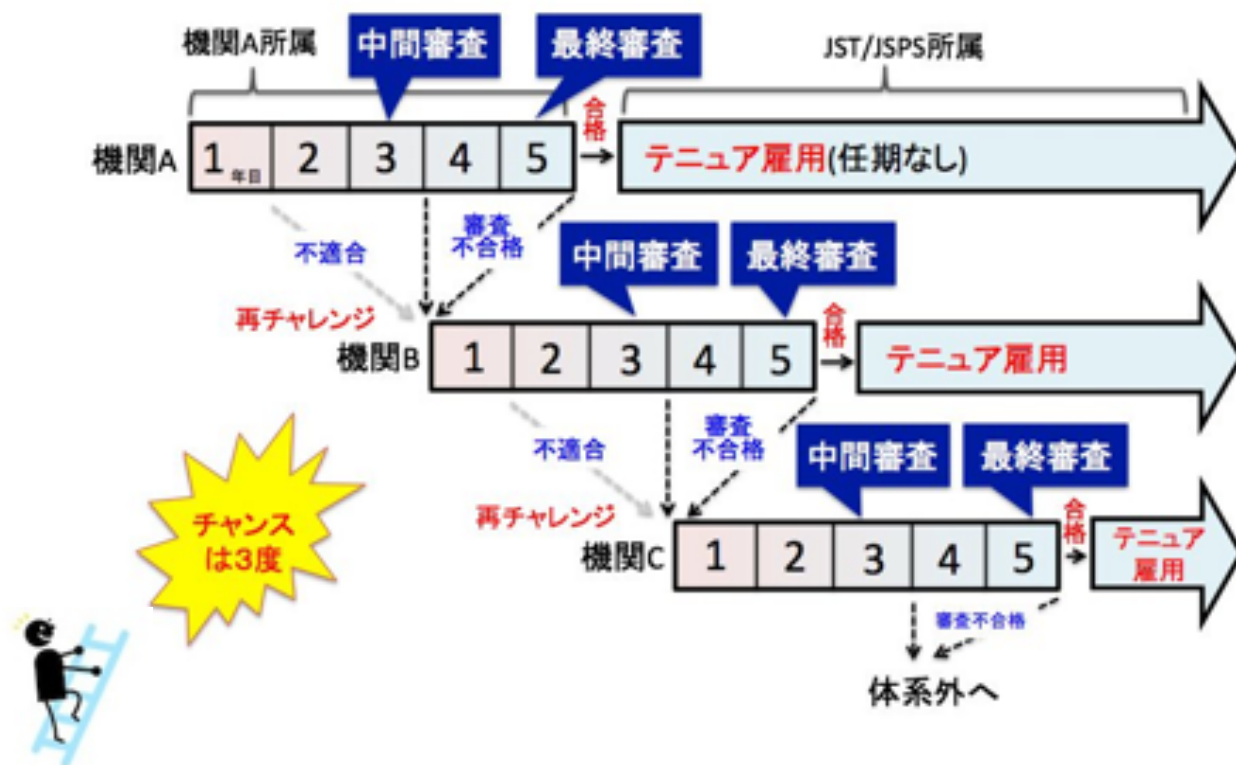
安定性と競争性を担保する 日本版テニュアトラック制度を!!



- ・ 身分は安定させるが競争的なアドオン給与
- ・ 余程のことがない限りテニュアが取得可能
- ・ 多様なキャリアパス

*そして余程のことが無い限り、テニュアが取得できるようにします。

(よほど悪くないかぎり)5年でテニユアに!!



<http://scienceinjapan.org/topics/20130925.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

5年くらいを単位として、3回くらい再チャレンジもいいのではないかと、ということです。

三度目の正直、ほとけの顔も三度まで、ということで

3回までチャンスが与えられるというのが、我が国の文化にマッチした方式なのではないかと。

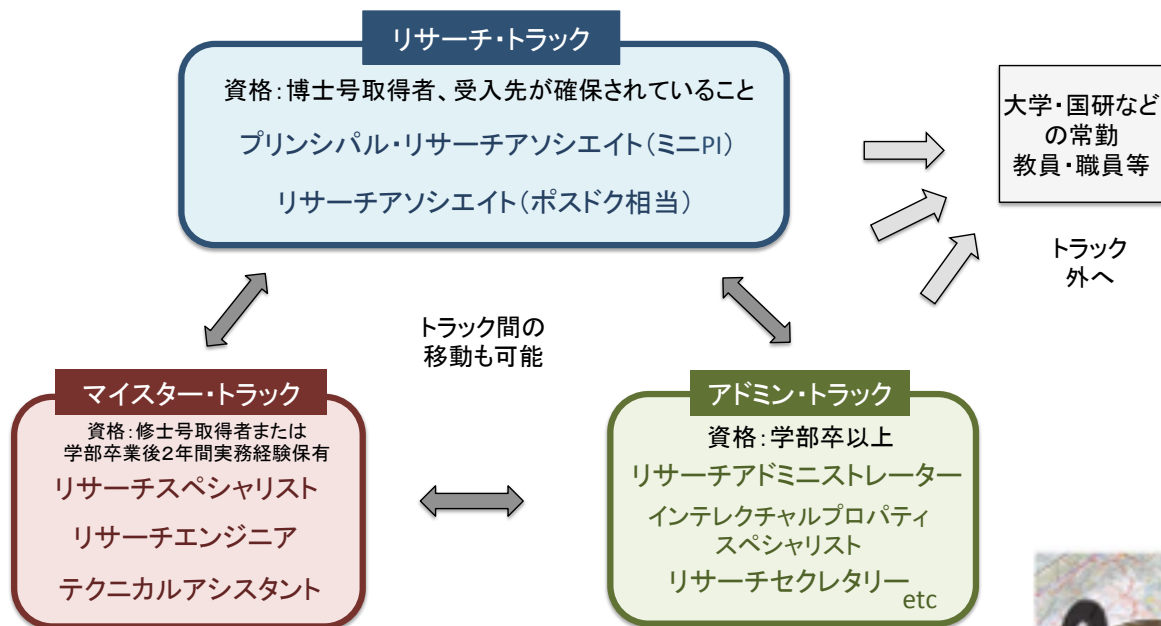
提案

安定性と競争性を担保する 日本版テニユアトラック制度を!!



- ・ 身分は安定させるが競争的なアドオン給与
- ・ 余程のことがない限りテニユアが取得可能
- ・ 多様なキャリアパス

多様なキャリアパス -3つのトラック-



参考URL(マサチューセッツ工科大学の職位・職階) <http://web.mit.edu/policies/5/5.2.html>

<http://scienceinjapan.org/topics/20130925.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

PIだけが研究を行なっているわけではないのでして、PIになるのがすべて、

テニュアはPIだけという考え方はよろしくないでしょう。

テニュアはPIだけでなく、ポスドクや技術補佐員、アドミニストレーターなど多様な方々が取得できるようにします。ノーベル賞の山中先生のご意見も反映させた案です。

アンケート

このようなテニュアトラック制度、導入して欲しいですか？

導入して欲しい（現在、大学・研究機関などの非常勤の職員、または任期付き常勤職についている；その他研究者以外である）。(57%, 102 Votes)

導入して欲しい（現在、大学・研究機関などの常勤の職員である）。(11%, 19 Votes)

導入して欲しくない（現在、大学・研究機関などの非常勤の職員、または任期付き常勤職についている；その他研究者以外である）。(6%, 11 Votes)

導入して欲しくない（現在、大学・研究機関などの常勤の職員である）。(4%, 8 Votes)

9割が
導入希望!!

このようなテニュアトラック制度を導入すると、国全体として
研究成果のアウトプットは増えるとおもいますか？

増えると思う。(72%, 119 Votes)

あまりかわらないと思う。(19%, 32 Votes)

減ると思う。(9%, 15 Votes)

7割が増える
と予測!!



<http://scienceinjapan.org/topics/20130925.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

この案について、アンケートをとりました。

*このようなテニュアトラック制度を導入してほしいですか？

という質問に対して、**9割が導入を希望、

*使える人件費の総額はかわらないという前提で、このような制度を導入すると、
国全体として研究成果のアウトプットは増えると思いますか？という質問に対して、

**7割以上が増える、と予測、しています。

課題

現状の競争的研究費には 様々な問題が!!

- ・ ハイリスク研究に打ち込めない！
- ・ ギャンブル性が高すぎる！
- ・ たくさん申請
せねばならず疲弊！



<http://scienceinjapan.org/topics/031413.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change
©CA 19.8

トピックその2です。*現状の競争的研究費には様々な問題があります。

*ハイリスク研究に打ち込めません。

*当たるか、外れるかのオールオアナンなので、ギャンブル性が高すぎます。

ですので、*たくさん申請せねばならずそれだけで疲弊してしまいます。

提案

安定した基盤的研究費 の導入を!!



- ・ 過去の実績の評価により額が変動、競争性も担保
- ・ 突然ゼロになったり極端に増えることはない

<http://scienceinjapan.org/topics/031413.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

そこで、*安定した基盤研究費の導入を提案したい。この研究費は、

*研究者の過去の実績の評価に主に基づいて、額がゆるやかに変動するようなものです。

*突然ゼロになったり極端に増えることはありません。

研究者の振り分け



- ・研究者を研究費「カテゴリー」にもれなく振り分け
- ・「カテゴリー」によって研究費の額のレンジが決まる
- ・5年ごとの評価によってカテゴリーの上下変動あり

「1,500万円の実力だが3,000万円に応募し撃沈（0円）…」

→ なくなる!!

<http://scienceinjapan.org/topics/031413.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

研究者を研究費カテゴリーにもれなく振り分けます。特、S、A、B、Cなど、既に科研費の制度にあるものですが、これをカテゴリーと名づけました。

*これによって、研究費の額のレンジが決まります。

*5年ごとなどの評価によってカテゴリーの上下変動があります。*これによって、

「1,500万円の実力だが3,000万円に応募し撃沈（0円）…」という悲劇は*なくなります。

研究費カテゴリー



- ・ カテゴリー毎の標準額の例(標準額は研究領域ごとに設定)

研究 細目 カテ ゴリー	実験系xx分野		理論系xx分野		人文社会系xx分野	
	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
D	0～250 万円/年	0～85 万円/年	0～125 万円/年	0～70 万円/年	0～100 万円/年	0～55 万円/年
C	250～500 万円/年	85～175 万円/年	125～250 万円/年	70～140 万円/年	100～200 万円/年	55～115 万円/年
B	500～1000 万円/年	175～350 万円/年	250～500 万円/年	140～280 万円/年	200～400 万円/年	115～225 万円/年
A	1000～2000 万円/年	350～700 万円/年	500～1000 万円/年	280～560 万円/年	400～800 万円/年	225～450 万円/年
S	2000～4000 万円/年	700～1400 万円/年	1000～2000 万円/年	560～1125 万円/年	800～1600 万円/ 年	450～900 万円/ 年
特	4000～8000 万円/年	1400～2800 万円/年	2000～4000 万円/年	1125～2250 万円/年	1600～3200 万 円/年	900～1800 万 円/年

分野によって使用する標準的な額が異なりますので、研究領域ごとにカテゴリー毎の標準額を
変える、ということも同時にする必要はあると考えられます。

アンケート

このような基盤的研究費を導入して欲しいとおもいますか？

導入して欲しい。 (92%, 201 Votes)

導入して欲しくない。 (6%, 12 Votes)

どちらでもよい。 (2%, 5 Votes)

9割以上が
導入を希望!!

このような基盤的研究費を導入すると、国全体として見た時に、
研究成果のアウトプットは増えるとおもいますか？

増えると思う。 (82%, 171 Votes)

あまりかわらないと思う。 (14%, 29 Votes)

減ると思う。 (4%, 9 Votes)

8割以上が
増えると予測!!



<http://scienceinjapan.org/topics/031413.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

アンケートでは、**9割以上がこのような研究費の導入を希望しています。

また、*この導入によって研究費の総額が変わらないという前提で、

**8割以上が国全体として見た時に研究成果のアウトプットが増えると予測しています。

課題

自分の研究・教育に関係の薄い 雑用が多すぎる!!

- ・ 研究と無関係な学内マネジメント
- ・ 膨大な申請書・報告書作成
- ・ 膨大な審査・評価業務
- ・ 優秀な研究者に集中しがち！



<http://scienceinjapan.org/topics/20131029.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

次のトピックです。課題、

*研究者には自分の研究・教育に関係の薄い雑用が多すぎて肝心の研究に集中できません！

*例えば、研究と無関係な学内マネジメント。

駐車場委員会とか電力消費削減タスクフォースなどですね。

*各種の膨大な申請書・報告書作成、*これに対応して当然各種の膨大な審査・評価業務もある、

そして*こういう雑用は概して優秀な研究者に集中しがちです。

提案 研究者の雑用 の戦略的な 軽減を!!



<http://scienceinJapan.org/topics/20131029.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

提案です。

*研究者の雑用の戦略的な軽減をお願いします！

アンケート

一ヶ月にどれぐらいの時間を雑用に使われていますか？

無駄な雑用にかかる時間は一ヶ月に10時間以上である。(68%, 122 Votes)

無駄な雑用にかかる時間は一ヶ月に2時間程度である。(26%, 46 Votes)

無駄な雑用にかかる時間は一ヶ月に30分程度である。(4%, 8 Votes)

無駄な雑用にかかる時間は一ヶ月に10分程度である。(2%, 5 Votes)

約7割が
10時間以上
も雑用!!

研究者の雑用は減らすことができますか？

大学・研究機関の努力だけでは減らせないが、行政の協力があれば減らせる。(64%, 118 Votes)

大学・研究機関の努力で減らせる。(31%, 58 Votes)

減らすことはできない。(5%, 9 Votes)

9割が
減らせると
予測!!



<http://scienceinjapan.org/topics/20131029.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

これについてのアンケートです。

- *一ヶ月にどれぐらいの時間を雑用に使われていますか？という質問に対して、
 - *ムダな雑用にかかる時間は1ヶ月に10時間以上であるという人が*約7割。
- *研究者の雑用は減らすことができますか、という質問に対しては、
- *大学・研究機関の努力で減らせる、かあるいは行政の協力もあれば減らせる、
というのを合わせて、*9割が減らせる、と予測してます。

課題

諸悪の根源・ 単年度予算制度!!

- ・ 年度末駆け込み購入によるムダな使用！
- ・ 残金ゼロ化のムダな努力！
- ・ 「預かり金」という不正！



<http://scienceinjapan.org/?p=407>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change
©CA 2016

トピックその4。課題は、*諸悪の根源、単年度予算制度！

単年度予算制度によって、*年度末駆け込み購入によるムダな使用、

残金ゼロ化のムダな努力、そして「預かり金」という不正などの諸問題が発生しています。

提案

すべての公的研究費の 複数年度予算化を!!



- ・ 研究費の有効活用ができる！
- ・ 預かり金をするモチベーションが激減！

<http://scienceinjapan.org/?p=407>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

これに対して、*すべての公的研究費の複数年度予算化をお願いしたい、という提案です。

*これにより研究費の有効活用ができます。

*そして預かり金をするモチベーションも激減します。この提案についての、

アンケート

研究費の基金化をすべての種目について
進めるべきだと思いますか？

はい (88%, 265 Votes)

いいえ (9%, 26 Votes)

その他 (3%, 9 Votes)

約9割が
基金化
を希望!!



<http://scienceinJapan.org/?p=407>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

アンケートです。*「研究費の基金化をすべての種目について進めるべきだと思いますか？」

結果は、*「ハイ」が88%で、*約9割が基金化を希望している、というものでした。

課題

日本人研究者の 海外留学離れ、内向き志向!

- ・ 海外に留学するのは不安!
- ・ 日本に戻れなくなってしまう!



<http://scienceinjapan.org/topics/20130404.html>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

次、*日本人研究者の海外留学離れ、内向き志向がいられています。

*ポストドク問題とリンクしてますが、海外に留学するのは不安、

*日本に戻れなくなってしまうのでは、という危惧があり、

海外留学離れが進んでしまい日本の研究力が低下する、というわけです。

提案

海外日本人研究者 ネットワークに公的な支援を!!



- ・ ネットワークで情報共有！
- ・ 日本人留学生の不安解消！

<http://scienceinjapan.org/topics/20130404.html>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

そこで、海外日本人研究者ネットワークに公的な支援を、という提案です。

*ネットワークで情報共有し、

*日本人留学生・留学を検討している人の不安解消ができないか、ということです。

アンケート

海外日本人研究者のネットワークを何らかの形で国が
公的にサポートすることについてどう思いますか？

サポートすべき。 (76%, 352 Votes)

サポートは不要。 (24%, 109 Votes)

7割以上が
援助に賛成!!



<http://scienceinjapan.org/topics/20130404.html>

協賛 **ScienceTalks**
Challenging norms, driving change. U.S.A. JAPAN

*このようなネットワークに国が何らかの形で公的にサポートすることについて
どう思いますか？という質問に対し、**7割以上が賛成です。

…研究者には**コンセンサス** はあるのになぜ？

<http://scienceinjapan.org/>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change
©CA 2016

以上のように一般研究者の大多数のコンセンサスがあるような案件がたくさんあるのに、なぜこういった日本の科学に大きなマイナスになるようなことが放置されているのか、明らかにプラスになることが実現されないのか、たいへん不思議なわけです。

ネットで揉んだ提案を
行政サイドに**直接**ぶつけてみた！！



そこで、ネットで揉んだ提案を行政サイドに直接ぶつけてみたわけです。

ネットでの「ガチ議論」サイト



リアルでの「ガチ議論」シンポ

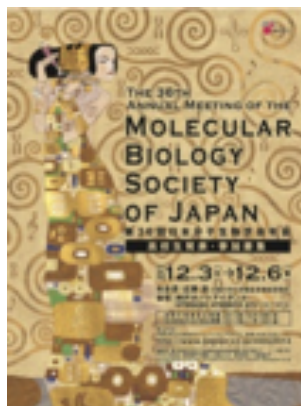


アクション

これが、リアルでのガチ議論シンポジウムです。

「ガチ議論」シンポジウム

第36回日本分子生物学会年会



2013年12月3日～6日

神戸ポートアイランド

年会長：近藤 滋



<http://scienceinjapan.org/>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

2013年12月に行われました日本分子生物学会で、
「ガチ議論シンポジウム」を開催いたしました。

「ガチ議論」シンポPRビデオ

[PRビデオ]

<http://scienceinjapan.org/>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change
UCLA, U.S.

研究者の皆さんに興味をもっていただけるようにこのようなビデオを作りました。

このビデオが学会の普通の口頭発表などの空き時間にずっと流されてました。



「ガチ議論」 パネリスト



<http://scienceinJapan.org/>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

パネリストには、行政側の方々、民間企業の方もお招きしまして、

会場参加者数

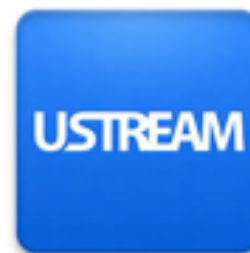
400名超



ウェブ生中継
ユニークビジター

2,400人

2013.12.5, 5:30PM-9:30PM



会場では400名超の方々、ウェブの生中継では2400人のユニークビジターが、参加されました。

ライブで公開、ネットで意見を募集



<http://scienceinjapan.org>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

シンポジウムは、ライブで公開し、ネットから生で意見を募集しました。
パネリストの方々の前のコンピュータ画面と、会場の第二スクリーンには、
リアルタイムでネットからの意見が見えるようにしておきました。

ガチの議論が熱く盛り上がった！

議論は、若干、発散気味！

しかし

見えてきたことがあった！



こういった仕掛けをしつつ、当日の3時間以上にわたる議論は熱く盛り上がりました。

*議論は若干発散気味であったものの、

*しかしながら見えてきたものもありました。

ライブTweetより

“誰かを頼らず、まず自分で勝手にやる。できる規模でやる。それを事業としてアピールして、行政を巻き込めれば大きくできる。”

(@Okii03さん)



ライブTweetより

“(研究者)全員が責任者だ”と思います。あらゆる意味で5%ずつエフォート使わないといけないですよ。身を削るつもりで。ともかく貴重な議論でした。”

(@yuchiiinoさん)



ライブTweetより

“...はじまりの一步でしたね。とても有意義なガチ議論をありがとうございました！
また開催を続けてほしいです”

(@radical_sheepさん)



学会アンケートから

“…会場からも同意の拍手が起こったことは、研究者の意識を高め問題を解決するためのアクションの起こし方について、皆が何かにはっと気がついた瞬間であったと思う。”

(大学・研究所等の常勤研究者)



学会アンケートから

“日本国内の他の経済やら行政のあれやこれやすら見る事もできず、盲目的に「研究するから金くれ」ではやっていられない状況を、**科学者も理解しながら自身の研究を行うべき**だと思う。”

(企業研究者)



学会アンケートから

“研究者の立場を行政側に伝えて、制度の改革を図ることは重要。”

(その他)



学会アンケートから

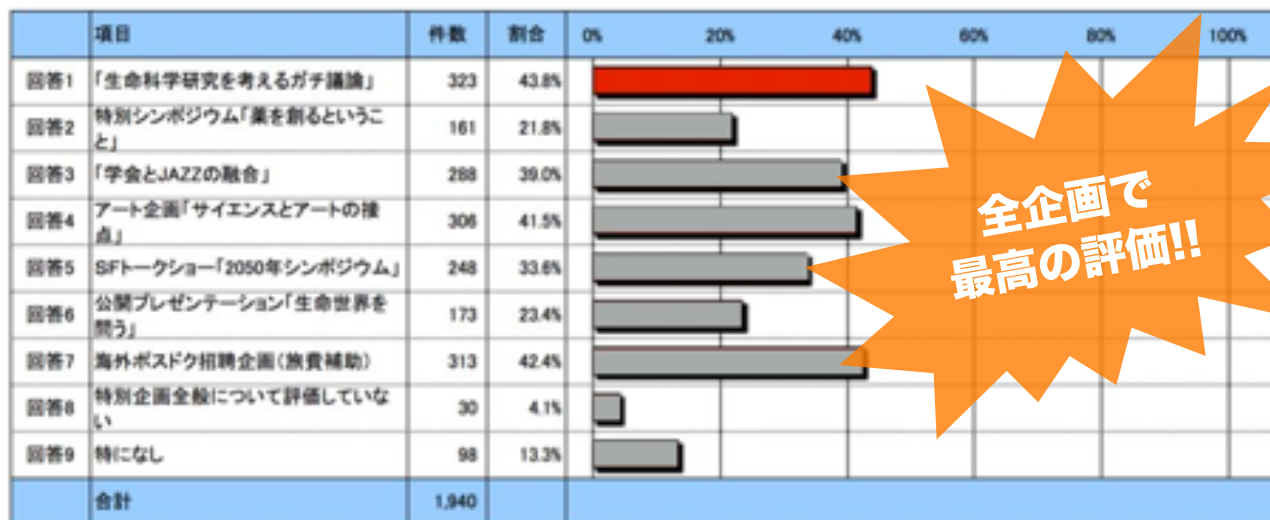
“毎年続けて、問題提起やメッセージの発信
をして欲しいです。”

(大学・研究所等の常勤研究者)



分子生物年会アンケートでの評価

Q: 2013年分子生物学会年会特別企画で良かったものは？



この企画は、今年度のこの学会のアンケートで全企画中最高の評価を得ました。

これは、一部のへんな研究者の企画ということではないということ、
この種の企画が必要とされている、ということを意味しております。

見えてきたこと

- ・研究者、行政サイド、企業等、各ステークホルダーが直接対話・「ガチ議論」することが重要!!
- ・「ガチ議論」をネットやリアルで継続的に行い、アクションまで繋げることが重要!!



つまり見えてきたことは、

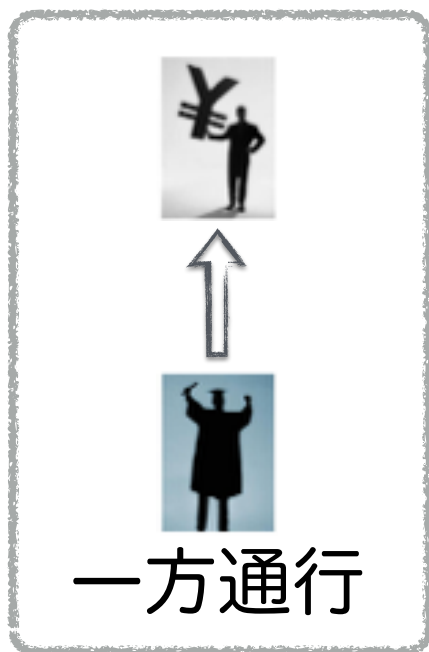
- *研究者、行政サイド、企業等、各ステークホルダーが直接対話・「ガチ議論」すること
- *「ガチ議論」をネットやリアルで継続的に行い、アクションまで繋げること、
が重要、ということです。

「ガチ議論」は これまでのボトムアップ提案と 何がちがう!?

さて、「ガチ議論」はパブコメのようなこれまでのボトムアップ提案と何がちがうのでしょうか

「ガチ議論」の新しさ

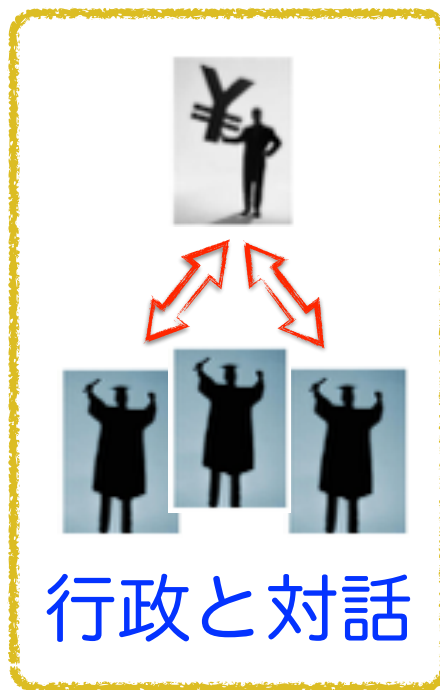
従来型ボトムアップ
パブリックコメント等



政策決定サイド、
研究者間の
コミュニケーションは？



「ガチ議論」



従来型では、政策決定サイド、研究者間のコミュニケーションが、研究者から行政側への一方通行だったのに対し、ガチ議論は、ネットを活用して一般研究者と行政との対話がなされました。

「ガチ議論」の新しさ

従来型ボトムアップ
パブリックコメント等



単発的提案
密室での検討

提案の出し方



「ガチ議論」



継続的な議論
公開での議論

また、従来型は、研究者から行政側への単発の提案になりがちであるのに対し、ガチ議論は、継続的な議論がネットとリアルで行われました。
従来型はだされた提案が密室での検討に終わりがちなのに対して、ガチ議論は議論が極めてオープンに行われました。

「ガチ議論」の新しさ

一般研究者も当事者に!!

これらにより一般研究者にも当事者意識が生まれたと考えられます。

ネットでの「ガチ議論」サイト



リアルでの「ガチ議論」シンポ



アクション

最後に、ガチ議論から、具体的にどのようなアクションへ結びつけるのかということですが、それを意識した企画としまして、

ScienceTalks
Challenging norms, driving change
by CACTUS

勝手に

第5期科学技術基本計画

みんなで
作っちゃいました～！

2014年 企画
Science Talks (サイエンストークス) 委員会



<http://www.sciencetalks.org>

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

このガチ議論企画に協力してもらっているScienceTalksというグループでは、

「勝手に第5期科学技術基本計画、みんなでつくっちゃいました～」

という企画を進めております。

勝手に

第5期科学技術基本計画

みんなで
作っちゃいました〜!

一般研究者の声を集約し、

・ ビジョン・計画づくり

・ アクションプラン

2014年 企画

Science Talks (サイエンストークス) 委員会



ボトムアップの研究者の声を集約して、ビジョン・計画をつくり、
具体的なアクションプランを提案してしまおう、という企画です。

「ガチ議論」からCSTPへの 3つのお願い

1. ネットを活用した現場の研究者との
継続的対話の場を設けてください！



<http://scienceinjapan.org>

協賛 Science Talks
Challenging norms, driving change

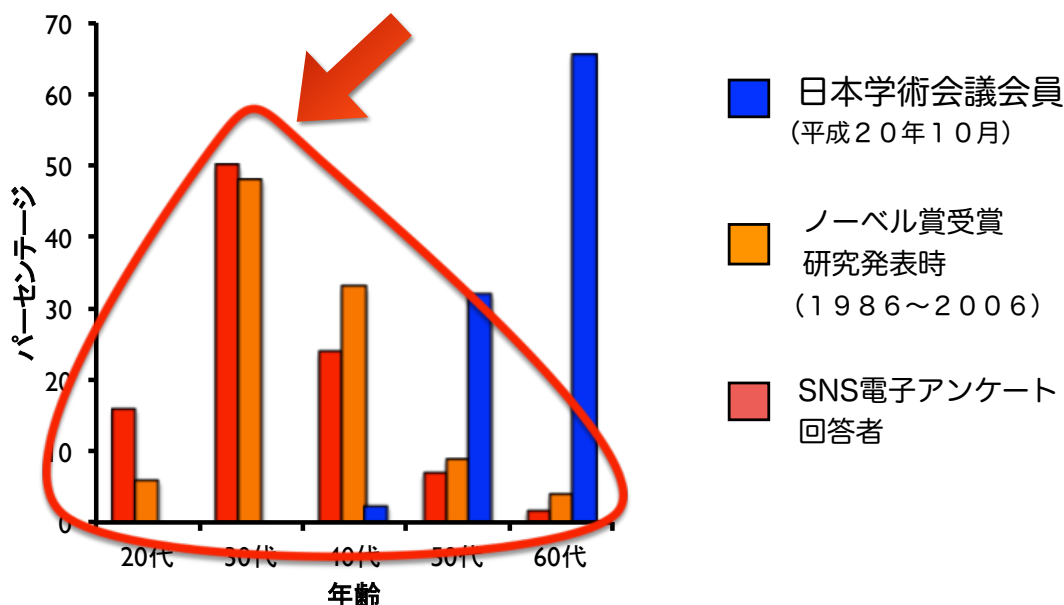
ともかく、ガチ議論からCSTPに3つお願いがあります。ネットをうまく活用して、
若手も含めた現場の研究者と継続的に対話できる場をお願いいたします。

これはそういったものをCSTPで作っていただいても結構ですし、

わたしどもの企画のような各種ボトムアップの企画と連携していただくということでも結構です

目するのはそんなに良いのか、「現場」の意見はそれほど重要なのか、という疑問もあるかとは思いますが、しかし、い

1. ネットを活用した現場の研究者との 継続的対話の場を設けてください！



H22年「科学・技術政策について地域からご意見を聞く会」発表資料（宮川 剛）より改変

http://researchmap.jp/mu36p4y5d-11452/#_11452

協賛 ScienceTalks
Challenging norms, driving change

このグラフ、横軸は年齢で、縦軸は人口の割合です。この青のものがなにかといいますと、
*日本学術会議会員です。年齢層に明らかに偏りがあります。このオレンジ色が何か、
ともうしますと、*ノーベル賞の受賞者が受賞の対象となった研究成果を挙げた時の年齢です。
*30代がピークです。小保方さんも30歳。そして、この赤い色ですが、
*以前、SNSでアンケートに答えてくださった研究者の方々の年齢層です。*こういう層の研究者
の声を聞かずして、まともな科学技術政策が行われるわけがないのではないのでしょうか。



「ガチ議論」からCSTPへの 3つのお願い

1. ネットを活用した**現場の研究者**との
継続的対話の場を設けてください！
2. 行政側の方々もご**参加**を!!
3. 議論は**公開**で!!



現場の意識に根ざした建設的な提案！

二つ目のお願いですが、このような場には、

行政側、CSTP関係者の方々もぜひご参加をお願いいたします。

*そしてクローズドの議論で何でも決めてしまうのではなく、ぜひ現場の研究者も巻き込んで、

我が国の科学技術政策を世界最高のものにするために、オープンに公開で議論をして
知恵を結集していただけますと有難いです。このようなことにより、現場の意識に根ざし、
かつ行政上の制約にも対応できる建設的な提案が生まれることが期待できます。

なにとぞ、よろしくお願いいたします。

第36回日本分子生物学会年会

「日本の科学を考える」委員会

委員会委員長 大阪大学大学院 教授 近藤 滋

委員会委員 理化学研究所 准主任研究員 中川 真一

藤田保健衛生大学 教授 宮川 剛

京都大学 准教授 宮野 公樹

藤田保健衛生大学 助教 小清水 久嗣

協賛

ScienceTalks
Challenging norms, driving change by CACTUS



*これらの意見はメンバーの所属する組織の
意見を反映しているものではありません